

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は職員で話し合い作成し、玄関・管理室・2階・3階の食堂に掲げている。また、地域密着型サービスの意義を全職員で確認し、地域生活の継続支援に努めている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時には必ず理念を伝え、理念の持つ意味を理解してもらえるようにしている。又、話し合うことで実践に結びつけていくようにしている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	パンフレットに理念を入れて、家族や地域に理念を伝えている。又、運営促進会議や家族・老人会長・民生委員会会長・役場担当者等に、クローバー通信を通して理解していただくようにしている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の歯科・美容院・理容院へはよく利用しているので、日常的に気軽にあいさつをしている。老人会の会長・支部長には行事や知己の様子の中で、時々立ち寄っていただいている。	<input type="radio"/> もっといろいろな人に立ち寄ってもらえるような施設にしたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の集まりやイベントの参加などの情報収集に努め、日々の活動の中に取り入れている。又、老人会向喜来支部(つくしクラブ)へ加入させていただき、老人会員として活動し、行事にも参加している。	<input type="radio"/> 老人会行事に参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者は地域のNPO活動を支援し、又、人材育成の貢献として介護福祉士・理学療法士・教育免許取得等の実習生の受け入れを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の結果をふまえ、事業所の改善計画を作成し取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回開催している。クローバー通信と共に伝え、参加者からの質問・意見・要望を取り入れるよう配慮している。	○	会議のテーマにより、各分野の方に参加をお願いしていきたい。(交通・消防等) 地域の情報を収集していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者に、毎月1回利用状況を提出している。又、事故があった場合は、随時提出するようにしている。又、運営推進会議に参加していただいている。	○	役場の町民課の窓口に「クローバー通信」を置かせてもらい、地域の方に活動状況を紹介したい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は「権利擁護」に関する研修を受講している。職員にも、今後勉強会を開き、理解を深めていく。対応が必要と思われる利用者は現在いないが、同法人のソーシャルワーカー(社会福祉士)と共にかかわっていこうと思っている。	○	ソーシャルワーカーとの勉強会を持ちたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	地域包括支援センターにおける高齢者虐待防止ネットワークの勉強会資料に基づき、職員一同で勉強して虐待防止に注意をしたい。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはゆっくりと丁寧に説明している。特に、利用料金や事業所のケアに関する考え方や取り組みについて、又、医療連携体制の実際、重度化や看取りについての対応については詳しく説明し、理解いただけるようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者本人も出席する機会を持ち、自分の思いを述べていただく機会を設けている。又、意見・不満・苦情に関するポスターを掲示し、意見箱を設置している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1ヶ月1回、家族の方へ、健康状態や日常生活や活動状況を文章にし、郵送している。又、家族の方の訪問時はおりにふれ状況を説明している。	○ 手紙の内容を家族に理解していただき、いろいろ知っていただけるように工夫したい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置。苦情に対しての受付担当者の明示や文書の掲示、第三者委員会を選任している。県運営適正化委員会のポスターの掲示をしている。又、運営推進会議への出席もお願いしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者や管理者は職員の要望や意見を聞くよう心がけている。又、日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、問いかけたり聞き出したりするようにしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状況により、夕食前後の人員配置を工夫している。又、職員の応援については同法人でいつでも確保できるので、安心できる。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動・離職がやむを得ない場合もあるが、新しい職員が入る場合、利用者నికిきちんと説明している。	○ 管理室前に、本日の担当職務者の名前入りの写真を貼りだし、利用者や家族の方へ安心して頂けるよう工夫している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	徳島県実施の認知症実践者研修・リーダー研修への受講を取り入れ、研修終了後は職員全体に周知するようにしている。またGH協会等の研修会や情報交換にも参加している。	○ 計画的に取り組みたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議のメンバーに地域の同業者や、関連施設管理者に参加を依頼し、相互訪問を実践している。又、GH協会にも加入しているので、研修会・情報交換の機会を持ち、サービスの質の向上に努めたい。	○ 今後も相互訪問を継続し、情報交換やネットワークを密にし、サービスの質の向上や利用者のQOLの向上に役立てたいと考えている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者や管理者は、職員とのコミュニケーションの場を多くもつように努めている。又、休憩時間・休憩場所も配慮し、親睦の機会を持つ等、気分転換を図る機会を作っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員のスキルアップに向けた研修の参加や資格取得に向けた支援を行い、職場内で活かせるような環境作りに努めている。	○ 今後も研修を奨励し、現場のスキルアップを図り、チームワークを向上させたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談があった場合は、本人の現在の状況・今後の希望等を、ゆっくりと話を聞く雰囲気作りに努めている。状況を正確に把握した上で、複数の選択肢の中から本人にとって最前の選択ができるよう努めている。	○ 利用に至るまでに、本人や家族から話や情報を今まで以上に多くとろうと思っている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談内容を明文化し記録に残し、秘密保持に努めている。又、相談しやすい雰囲気作りに努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの家族の介護に対する苦労や不安感、家族が求めているものをゆっくりと聞き、本人の状況を把握することにより、信頼関係を作っている。又、必要に応じ、他のサービス情報の提供や紹介もしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必要に応じて、通所サービスからの利用も考えている。入居当初には家族や知人の面会も協力いただく等、本人が安心できるよう心がける。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔のことや調理方法等、わからないことを教えてもらう場面作りの工夫等している。	○	寄り添うケアができるようにバリデーションを取り入れたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを理解し、日々の暮らしの出来事や気づきの情報の共有に努め、家族と同じ思いで支援していく。又、1ヶ月1回ホーム内での本人の健康面や、なにげない日常生活面を手紙に書き郵送している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出や外泊で家族と一緒に過ごすことをすすめていたりしている。1ヶ月に1回、本人の生活状態や健康面など記入し家族の方に郵送し理解・協力をして頂いている。	○	家族の方へ、手紙を今後継続していきたい。手紙の内容の検討も必要と考えている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人に手紙を書き連絡をするなど、支援している。又、面会は制限していない。地域の集まり、行事にも参加する。	○	近所へ一緒に外出するなど、今まで培ってきた地域の方々との交流などを継続していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別に話を聞いたり、入居者同士で過ごせる場面作りをするなど、利用者同士の関係がうまくいくように職員が間に入ったり、調整役となるように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了して、他のサービスを利用されても、訪問やお見舞いに伺い、声かけ・あいさつをしようと思っている。	○	サービスの利用が終了しても、行事に招待したり、遊びに来ていただけるような付き合いをしたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人の意志を尊重したケアプランを作成している。又、日々のかかわりの中で声をかけ、本人がどのような生活を希望されているか、言葉や表情等で確認するよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族などから、生活歴を聞き取るようにしている。又、利用後も折に触れ聞き、現在のサービスの内容に生かしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の生活リズムを理解し、本人のできること、したい事に視点をおき、本人の全体像の把握に努めている。	○	センター方式を活用したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアカンファレンスは定期的、又必要に応じて開催し、意見交換やアイデアを出し合っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にケア内容の見直しを行い、評価内容を文章化して残している。又、評価内容をもとに、新たな介護計画へと展開している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録、健康チェック表を作成し、日々の気付きを記入している。職員間の情報の共有に努めている。又、介護計画の見直しや評価を残し今後の介護実践へ反映している。	○	記録の書き方等、統一できるようにし、勉強していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院の横で建物も渡り廊下で結んでいる。医療連携体制をとり、夜の緊急往診も可能である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議に地域の民生委員や老人会の会長、又、地域の警察の方に参加して頂き、マニュアルの見直しや意見を反映している。	○	地域のいろいろな方に運営推進会議に参加していただきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の希望に応じて、町立図書館に行ったり、階下のデイケアと合同で行事したり、介護老人保健施設の行事に参加している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員が介護認定の調査に来所した時に、いろいろ相談をしたり、指導を受けている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接した病院で、家族も安心して、協力医療機関をかかりつけ医として希望している。通院も徒歩数分で、職員が付き添っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	理事長が医師であり、介護老人保健施設の認知症専門医研修の受講を終えている。さらに同町内の精神科医にも相談できる関係にある。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師であり、日常の健康管理に注意をしている。又、管理者がいない時は昼夜を問わず、介護職員が医療連携の病院の看護師に相談できる。又、緊急の場合はすぐに訪問を受けることもできる。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時から家族と相談し、病院の退院に関しては、ソーシャルワーカーと計画的に進めていくようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に関しては、家族とも入所時から話している。家族、本人、医師と職員が何回も話し合い、同意を得る。見取りの指針、同意書を作成している。	○	早い段階から繰り返し話し合い、全員で方針を共有したい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期については最初から家族とよく話し合い、意向を確認している(同意文書)。又、状態の変化のたびに相談し、入院・往診・看取り等の支援をする。医師・職員・家族が連携をとり安心して最期を迎えられるように取り組んでいる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の場所に移る場合、アセスメント・ケアプランや情報を手渡し、情報交換を行う。又、顔なじみの職員が訪れることにより、安心感を持っていただく。	○	別の場所へ移られた場合も、職員同士で情報交換をし、ダメージの防止に努めたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者のプライドを傷つけないような言葉遣いや、介護に気をつけて対応している。記録等の個人情報には鍵のかかる場所におくようにしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中で、表情や全身反応をキャッチしながら、自己決定ができる場面づくりをしている。	○ 利用者の希望をもっと聞き出せるようにしていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の状態や想いに配慮しながら柔軟に対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容・美容は近所にいたり、出張の理美容サービスに、カット・パーマ・毛染め・散髪等、本人の希望に応じることができる。	利用者にはいつも身だしなみをきちんとし、お洒落をしていただきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に食事をしながら、会話のある楽しい雰囲気できりげない気配りをしている。又、準備・食事の後片付けも一緒に手伝っていただいている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入所時に本人の好む嗜好品を聞き、体調を見て提供している。たばこは施設内禁煙なので、ご遠慮していただいている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間や習慣・体調を把握し、排泄チェック表を使用し、時間を見てトイレ誘導している。又、尿取りパット・はくパンツの使用もしているが、最低限の使用にしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	好みの時間の入浴ができるよう希望に合わせて工夫している。入浴剤や季節湯の5月はしょうぶ湯、6月は庭のラベンダーを入れ楽しんで頂いた。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜ぐっすり眠っていただけるよう、1日の生活リズムを整えていくよう努めているが、入眠できない方に対しては、無理に就眠をすすめる事がないよう管理室で話をしたり、ある程度一緒に過ごしてもらっている。	○	一人ひとりの習慣や体調を見極めていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人のできることに、できないことを考慮し、各人の得意分野で洗濯たたみ・清掃・ゴミ出し・食事の用意など職員と一緒にしている。	○	利用者の力をもっと引き出していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て少額のお金を持っていただき、自分で支払いができるよう支援している。家族よりお金を預かっている方もいるので、事業所内の金庫で管理し個別の台帳をつけている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の楽しみごとを把握し、それに合わせて職員が同行し買い物や外食などで屋外に出かけている。又、敷地内で散歩をされる方もいる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段行けない場所やイベントに出かける時は、あらかじめ家族に相談し、又、本人の希望も参考にして外出の機会をつくり支援している。	○	外出に家族の協力が得られるようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いを出すための支援を行っている。又、利用者の希望があればいつでも電話や手紙が出せるように支援をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間は定めてないが、午後8時までにはお願いしている。家族の都合の良い時間に気軽に来ていただき、椅子を出したり、お茶も出せるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束しない介護をめざしている。やむなく拘束が行われる場合のマニュアルや同意書類は用意されている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りの介護を徹底し、利用者が外出しそうな様子を察知したら、さりげなく声をかけたり、一緒についていくなど安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者のプライバシーに配慮しながら、管理室にて出入りをチェックしている。玄関(1・2・3F)のチャイム、セコム監視カメラを活用している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	内服薬は飲み忘れの可能性があり、家族も希望されるので預かり、管理させていただいている。ナイフ等は、利用者の状態により判断するが、基本的には必要な時に貸し出す事で、家に持って帰っていただいている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書やひやりハット報告書を使用している。事故を未然に防ぐため、一人一人の生活習慣を職員全員で把握できるように情報を共有して支援している。	○	勉強会で報告書の書き方や報告の仕方を取り上げてみて、徹底してできるようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	基本的な対応はマニュアルを用い、説明・勉強をしている。しかし、夜間の対応は隣接の本部病院の職員が応援をするような協力体制をとっている。	○	定期的に応急処置や初期対応の訓練を行っていきたいと考えている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を経て、避難訓練や消火器の使い方など年間2回実施している。又、地震・水害に対してはマニュアルを作成している。	○	地震についてのマニュアルを周知徹底したいと考えている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	役割活動や自由な外出により、本人のできる事の発揮や抑制のない日々の暮らしで、行動の障害をなくしている事を家族に具体的に説明している。		
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化や普段の状況を把握しバイタルチェックを行い、職員の情報交換にて利用者の状況把握に努めている。又、変化やサインの記録を医療受診につなげている。	○	気づきの認識を高めたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者の病歴・服用している薬を確認し、薬情書類も個別記録表に保管している。症状の変化があれば、主治医に報告するようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防に向けて、水分補給や繊維質の多い食材を取り入れ、自然排便できるようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	義歯の洗浄や歯磨きの声かけを行っている。又、就寝前は義歯の洗浄を行っている。	○	口腔ケアのノウハウを高めたい。歯科衛生士や言語聴覚士の指導を受けたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量をチェックし、生活記録の中に残して職員間の情報の共有に努めている。又、献立・栄養バランスについては病院の管理栄養士に指導してもらっている。	○	管理栄養士の指導で低栄養を防いでいきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、全職員で学習して予防対策に努めている。流行の兆しのあるものに関しては、早めに対応するよう心掛けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所用品や調理用具の清潔・衛生を保つように職員間で取り決め、実行している。食材は毎日買い物に出かけ、新鮮で安全な食材を使用している。冷蔵庫や冷凍庫の食材の残りの点検は頻繁に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気のある玄関になるよう、玄関先のプランターや花壇には、季節の花を植えたり、ベンチを置いている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや食堂には生花を飾ったり、絵・写真を飾っている。又、季節感を取り入れるような飾り付けを工夫をしている。	○	これからも環境作りにいろいろなアイデアを出していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に広いスペースがあり、そこにはTV・椅子・ソファなどを置き、一人で過ごしたり仲の良い利用者同士がくつろげるスペースを作っている。又、窓際にも椅子を置いたり、畳スペースもある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた日用品が各自の部屋に持ち込まれ、思い出の写真等も飾り、利用者が安心して居心地よく過ごせるように配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	外気との温度差がある時は、利用者の様子をみながらこまめに調整している。職員の体感温度に合わせて、常に気をつけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能の変化に考慮し、利用者の現在の状態に応じて対応している。段差・家具の配置等も考慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員は一人一人のわかる力をみきわめて、不安や混乱・失敗が今以上に生じないように、その都度職員一同で話し合い、利用者の望む環境を工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にプランター・花壇のスペースを確保し、日常的に利用者が楽しめるような環境を作っている。	○	花作りや植物の手入れに、もっと興味をもっていただけるようにしたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者個人個人が自分のペースで自由に過ごしている。病院の併設施設であり、渡り廊下でつながっている為、医療面においても安心して過ごせている。リスクは高いが、日中は鍵をかけず、行動の抑制をしない。職員がその人を理解し、見守りをしている。法人全体でグループホームの運営や活動内容に、理解や協力体制がある。